

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.5

日時	2013年月25日
行脚先	伏見城
住所	京都府京都市伏見区桃山町大蔵45
行事名	

特徴

伏見は東山から連なる丘陵の最南端に位置し、南には巨椋池が広がり水運により大坂と京都とを結ぶ要衝の地であった。

伏見城は三度に渡って築城され、最初の城は朝鮮出兵(文禄の役)開始後の1592年(文禄元年)8月に豊臣秀吉が隠居後の住まいとするため伏見指月(現在の京都市伏見区桃山町泰長老あたり)に建設を始めた。このとき築かれたものを指月伏見城、後に近隣の木幡山に再築されたものを木幡山伏見城と呼んで区別され、さらに木幡山伏見城は豊臣期のもので、伏見城の戦いで焼失した跡に徳川家康によって再建された徳川期とに分けられる。豊臣期の伏見城は、豪華な様式が伝わる。

黒田官兵衛との関わり

官兵衛ら側近らの助けもあり、天下人に駆け上った秀吉は、慶長3年3月15日(1598年4月20日)、京都の醍醐寺において、のちに「醍醐の花見」として伝えられる盛大な宴を催しました。この日は豊臣秀頼、北政所、淀殿らの家族をはじめとして、諸大名から配下の者まで約1300名が顔をそろえ、それは盛大な花見となりました。

記録

